

加須保健所管内人口緩やかに減少

- ・管轄区域 3市（行田市、加須市、羽生市）
- ・管内人口 242,831人
- ・高齢化率 32.1%

全人口、生産年齢人口
が減少。老年人口微増

		R4.1.1	R5.1.1	R6.1.1	R7.1.1	R8.1.1
各市	行田市	79,324	78,741	78,416	77,854	77,396
	加須市	112,235	112,179	112,163	112,018	11,846
	羽生市	54,051	53,951	53,855	53,696	53,589
管内合計	管内人口	245,618	244,871	244,434	243,568	242,831
	老年人口(数)	76,053	76,667	77,365	77,749	78,047
	高齢化率	31	31.3	31.7	31.9	32.1
	生産年齢人口(数)	143,396	142,587	143,387	141,383	140,969

出典：加須保健所事業概要

3

加須保健所管内の健康状態

令和5年度 埼玉県特定健診データ解析報告から

- ・ 高血圧有病者が多い
- ・ 糖尿病有病者が多い
- ・ 男性の喫煙者が多い
- ・ 運動習慣がない人が多い



<精神担当>



S 相談員



M 保健師
(母子・難病兼務)



A 保健師
(母子・難病・
健康づくり兼務)

3人とも加須保健所1年目

管内の精神保健の現状は？

地区診断が必要！

4

担当が感じた精神保健に関する地域特性

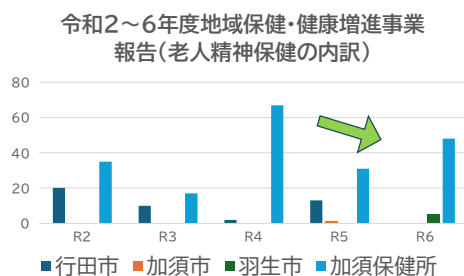
- ① 通報件数が少ない(令和7年度50件、令和8年度上半期26件)
- ② 通報に挙がる前に家族、警察が保健所につないでくれている
- ③ 管内の精神科病院や隣接している精神科病院で緊急時の受診可
- ④ 地域の精神に課題を抱える人に対して寛大である
- ⑤ 人に対して優しい、思いやる心がある

5

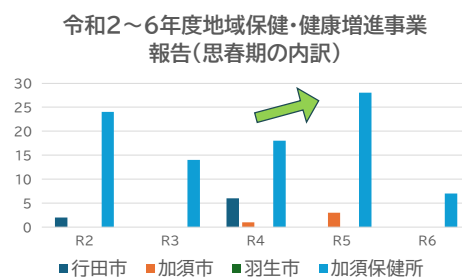
担当が感じた精神保健に関する地域特性

- ⑥ 高齢化率が高い地域であるが若年層の相談が増えている。

令和8年度上半期(加須保健所): 12件



令和8年度上半期(加須保健所): 46件



6

加須保健所で優先する取組は？

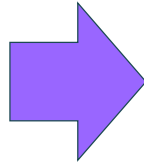
精神に課題を抱える人

健康教育（予防的）

支え手を増やす

にも包括

管内市と協働で



心のサポーター養成事業

北埼玉地域障がい者

支援協議会

精神障がい者部会



【健康日本21】

健康寿命の延伸と健康格差の縮小 社会・健康課題の多様化 「誰ひとり取り残さない健康づくり

【2040年を見据えた保健師活動指針】

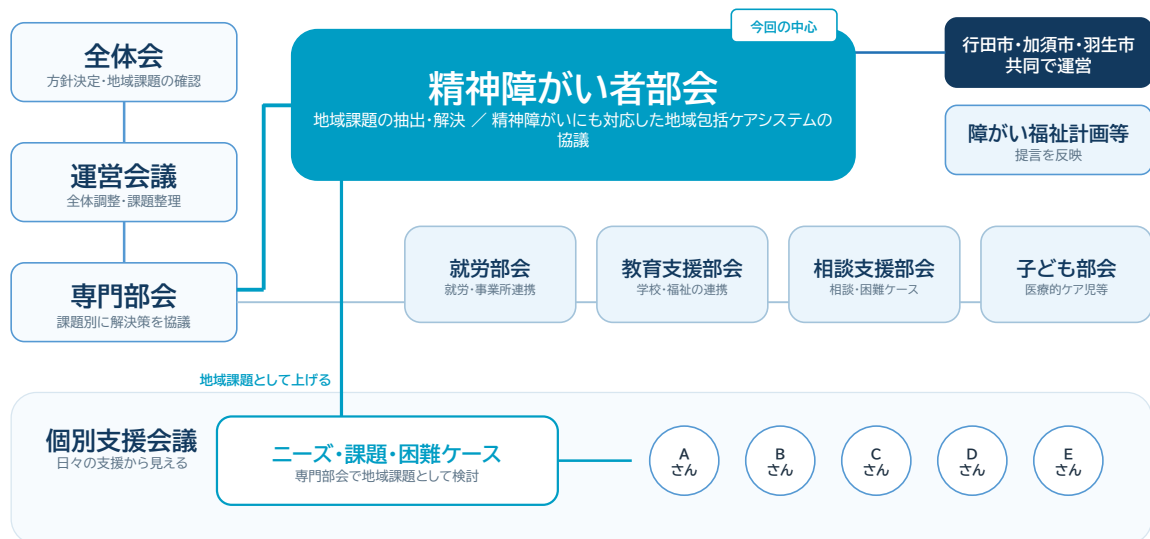
今後の人口構成や複雑化するニーズに対応 管内は生産年齢人口減少、老年人口微増（近い将来減少）

複数の自治体が共同することが必要

7

北埼玉地域障がい者支援協議会 | 関係図

地域課題を「個別支援」から「地域の仕組み」に



出典：北埼玉地域障がい者支援協議会「障がい者支援協議会の位置づけ」（提供資料をもとに作成）

8

心のサポーター養成 プロセス(R8 前半)

月	事業段階	主な実施内容
4月	企画	担当内合意形成 管内3市へのヒアリング
5～6月	関係機関との連携	北埼玉地域障がい者支援協議会精神障がい者部会の承認 精神保健福祉センター技術協力への相談、協力依頼 県障害者福祉推進課へ企画相談、 県障害者福祉推進課からここサポ事務局へ研修会の申込手続
7～8月	基盤整備	情報発信 加須保健所HPにここサポ事業掲載 啓発物の作成 研修会チラシの作成 加須保健所職員 指導者研修受講(保健師・医師)
9月	研修会の開催	北埼玉地域障がい者支援協議会精神障がい者部会において 心のサポーター養成研修開催 受講者 40名 県障害者福祉推進課から心のサポーター認定書の発行

9

心のサポーター養成研修 チラシ

<A案>



保健所でチラシ(案)を作成し
精神障がい者部会で投票



B案に決定！！
今後の研修会の案内はこの
チラシで・・

<B案>



10

ココサポ 指導者研修

- ✓ 指導者とは
地域で開催される心のサポーター養成研修の講師を務める等、自治体・団体やココサポ事務局と連携して心のサポーターの活動を支援する人を指します。
 - ✓ 指導者になるには
オンラインで120分の共通研修を受講後、オンデマンドにて選択研修動画を視聴の上、最後に確認テストを受験。1科目でも合格されますと後日認定証が発行されます。
 - ✓ 講師として行うこと
 - ・心のサポーター養成研修(120分)の内容をわかりやすく伝える
 - ・ロールプレイ等、受講者の学びをサポートする
 - ・受講者を勇気づけ、学びを応援する
- 出典: 厚生労働省HP [ココサポ養成事業 | こころは見えない。だから、聴く。](#)
- ✓ 指導者研修を受けて
オンライン120分は基本の話で現場で勤務している人には気軽に聴ける内容
確認テストも質問をよく読めば満点！何度でもチャレンジできる！



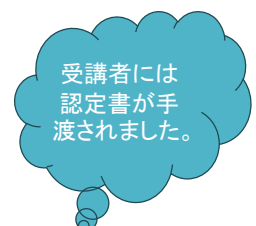
11

心のサポーター養成研修の様子



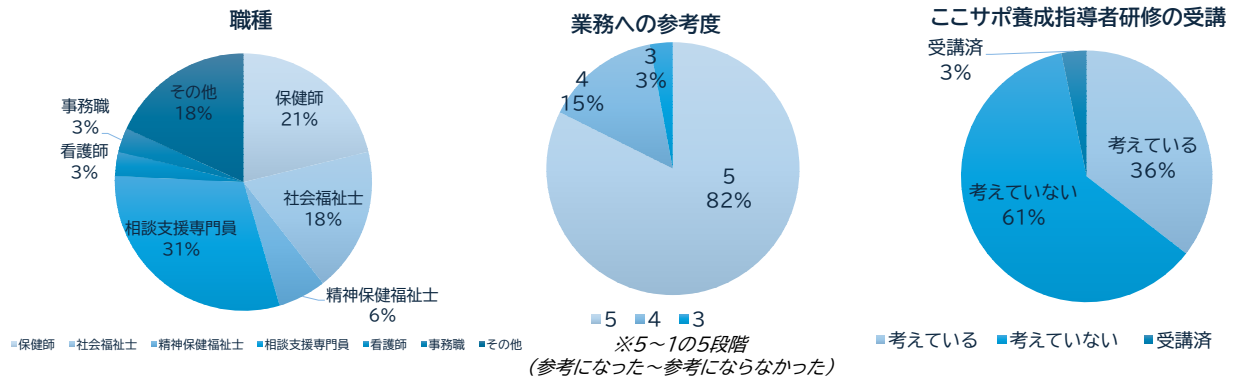
令和8年度 心のサポーター研修
日時: 令和8年9月25日(金)
場所: 羽生市役所
講師: 県立精神保健福祉センター
主査 山神智子氏

参加者: 北埼玉地域障がい者支援協議会の支援者等 40名



12

心のサポーター養成研修アンケート結果より(n=34)



参加者の声(一部抜粋)

- ・聴き役・話し役の両方を体験することで、聴くことの難しさと大切さを再確認できた。
→グループワークでの体験学習が効果的であった
- ・聴く力は子どもから身につけてほしい
→小学校での授業や保護者会での実施を望む声も多数。家庭・地域・自治会活動など、対人支援に関わる場面での活用を想定している声も。

13

普段の保健活動の中で・・・ここサポ紹介



R8.7.17 埼玉純真短期大学
社会教育(プレコン)講義場面

栄養・健康づくり担当者の企画する プレコンセプションケアの推進事業

- 日時: 令和8年7月17日(金)
対象: 埼玉純真短期大学1年生 93名
内容: 講義(90分)
「今知ってほしい女性の健康」
- ・身体の健康(保健師)
 - ・こころの健康(精神保健福祉士)
 - ・栄養(管理栄養士)

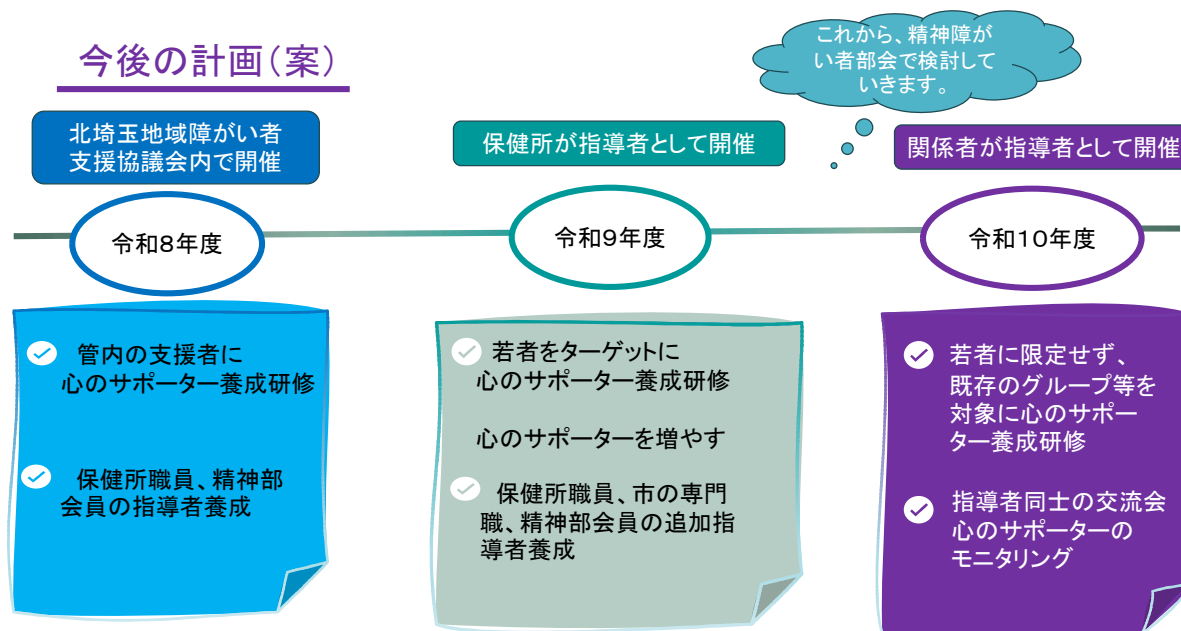
14

心のサポーター養成研修プロセス(R8 後半)

月	事業段階	主な実施内容
10月	振り返り	9月25日に実施した「ここサポ」について 参加者のアンケート結果の分析 北埼玉地域障がい者支援協議会精神部会で今後の方向性の確認
11～12月	次年度に向けての準備	指導者研修受講(加須保健所2名、その他) 次年度の対象者(若者)管内大学・短期大学に健康教育について打診
2～3月	PDCAサイクルによる次年度への計画	北埼玉地域障がい者支援協議会精神部会で来年度の計画案を策定

15

今後の計画(案)



16

まとめ

【先を見据えた課題】

- ・ 全人口減少
- ・ 生産年齢人口の減少
- ・ 高齢者世帯や単身高齢者の増加
- ・ 支える人材の不足
- ・ 社会とのつながりが切れて
いる人の増加



より少ない人手でも回る
医療、保健、福祉が必要

「心のサポーター養成は」...

- ✓ ポピュレーションアプローチであり、健康水準の底上げにつながる
 - ✓ 健康格差や自治体間の格差を軽減するためにも3市と保健所が一緒に地域を耕す場となる
 - ✓ 限られた社会資源の中でより有効な効果を得るために活用できるものは「北埼玉地域障がい者支援協議会」である
 - ✓ 市の障がい者福祉計画第8期に「ここサポ」の推進を評価のひとつにできる
 - ✓ ここサポ事業の周知、認知度の低さが課題
- 研修時間120分(共通90分+専門30分)の壁
こころのサポートは重要でありこの時間が必要である
ことの理解を得ることが必要

17

ご清聴ありがとうございました。



18